

# Wesley Hall News

ウェスレー・ホール・ニュース

April, 2026 No.151



あの方は、ここにはおられない。  
復活なさったのだ。

ルカによる福音書 第24章 6節

# あなたは 愛されています

大学宗教主任 シュー 土戸 ポール

ローマの信徒への手紙 第8章38~39節

私は確信しています。死も命も、天使も支配者も、  
現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、  
他のどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から  
私たちを引き離すことはできないのです。

新学年度にあたり、とてもシンプルで、最も大切なことから始めたいと思います。これは、青山学院に集うすべての皆さん、そしてご家族の皆様にも、何よりも最初にお伝えしたいメッセージです。

## 「あなたは愛されています」

この言葉は、あなたが何かを成し遂げる前から、あなたに向けられています。新しい環境で「早く結果を出さなければ」「周囲に認められなければ」と焦る必要はありません。あなたがすべてを理解できるようになる前から、成功する前から、あるいは何かに挑戦する前からであっても、この事実は揺らぐことはありません。

キリスト教の信仰において、すべての出発点は「愛」にあります。それは、良い成績や素晴らしい実績への「ご褒美」として与えられるものではありません。懸命に努力して、ようやく手に入れる対価でもありません。それは、神さまからあなたへの、一方的で無条件な「贈り物」なのです。

## 自分の価値を証明しなくていい

私たちは日々の生活の中で、つい「自分にどれだけの価値があるか」を証明しようとしてしまいます。しかし、聖書が語る神の愛は、私たちの信仰の強さや行いの正しさから始まるものではありません。神の愛は、神ご自身から始まり、すでにあなたを包んでいます。



つまり、あなたはここで、無理をして自分を取り繕う必要はありません。本当の自分を隠して、強く見せる必要もありません。あなたは、今のままで、すでに神に受け入れられています。「何ものも、神の愛から私たちを引き離すことはできない」という聖書の言葉は、単なる気休めではありません。この愛は、傷ついた心を癒やし、疲れ果てた状態から私たちを回復させ、もう一度前を向いて歩き出す力を与える「命の源」なのです。

## 誰もが「そのまま」でいられる場所

青山学院大学では、毎日の礼拝や、毎週火曜日の夕方に学生主体のコンテンポラリー礼拝が行われています。そこでは、学生や教職員、時には卒業生や教会の方々が集まり、この変わる事のない愛を思い出し、喜び、体験する時間を過ごしています。

この礼拝のコミュニティは、すべての人を迎え入れる神の愛の上に築かれています。ここに来るために、特定の宗教的な立場に当てはまる必要はありません。プロテスタントでもカトリックでも、クリスチャンでもそうでなくても、あるいは宗教に興味がある人も、大きな疑問を抱えている人も、皆等しく歓迎されています。

多様な背景を持つ人々が、それぞれの重荷を抱えたまま集うことができる、こうした徹底したもてなしこそが、福音の中心そのものなのです。

## あなたの居場所として

学校生活や日々の生活は、刺激的で楽しいものですが、同時に孤独や不安、言いようのない疲れを感じる場面も少なくありません。もしあなたが今、「どこにも自分の居場所がない」と感じていたとしても、これだけは覚えていてください。あなたは、いつでも、神を礼拝する場に属しています。

礼拝は、テストの場でも発表の場でもありません。正しい言葉や正しい信仰を持っているかを問われる場所でもありません。礼拝は、あなたが深く息をつき、肩の力を抜ける場所です。

疲れている時も、迷っている時も、あるいは希望にあふれている時も、ありのままに来てください。イエス・キリストはこう言われました。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

(マタイ 11:28 新共同訳)

礼拝は、あなたの心を休める場所です。日々の生活に圧倒されそうなとき、自分の価値が見えなくなったとき、どうか思い出してください。

あなたは愛されています。

あなたは、いつでも神様から歓迎されています。

# ようこそ 青山学院へ

新たな出会いと発見に満ちた学院生活。  
新しい仲間へ歓迎のメッセージを送ります。



幼稚園教諭 橋本 治奈

## 神さまとともに

新入園児の皆さん、ご入園おめでとうございます。いよいよ幼稚園生活が始まりますね。皆さんが幼稚園に来るのを楽しみに待っていました。幼稚園

は自分の好きなことを見つけてたくさん遊ぶところです。一緒にやりたいことや楽しいことをたくさんしましょうね。初めての幼稚園生活は、嬉しいことや楽しいことだけではなく、ときどきすることやお家の方に会いたくなって涙が出ることもあるでしょう。そんなときには、先生たちだけではなく、お兄さんやお姉さんたちも、皆さんのことを心配して声を掛けてくれます。どんなときでも、先生たちは一人ひとりのありのままの思いを受け止めて、近くにいますから安心して幼稚園に来てくださいね。

青山学院幼稚園で一番大切にしていることは神さまへの礼拝です。毎日お祈りをして讃美歌を歌います。聖書のお話も聞きます。嬉しいときも、悲しいときも、どんなときでも神さまと一緒にいて守ってくださいます。一人ひとりが神さまの子どもとして、神さまの愛と恵みの中で過ごしていかれることに感謝して、光の子どもとして歩む3年間となりますように。

# 泣いていたあの日から ～神様に守られて歩む園生活～

幼稚園保護者会会長 齊藤 久美子

ご入園おめでとうございます。ときどき、わくわくしながら迎えた入園式が、つい先日のことのように思い出されます。

入園したばかりの頃、何をすることも私から離れられず毎日泣いていた息子。雨の日も風の日も歩きたくないと、毎日抱っこで登園していた息子。虫や花や葉っぱを見つけては立ち止まり、15分の道のを1時間以上かけて登園していた息子。

「これはいつまで続くのだろう」と、先の見えないトンネルの中にいるような気持ちになることもありました。

そんな息子も今では、たくさんのお友達と出会い、後ろを振り向くことなく門を駆け抜け、嬉しそうに保育室へ向かっていきます。神さまに見守られ、先生方の深い愛情に包まれながら安心して日々を過ごしてきたからこそだと、心から感謝しております。

どうか今しかない、このかけがえのない愛おしい時間を、親子でゆっくり味わいながらお過ごしください。幼稚園で過ごす日々が、神さまの恵みに満ちた宝物の時間となりますように。皆さまを新しい仲間としてお迎えできることを、心より嬉しく思っております。



## 新しい世界へ

初等部教諭 福岡 悠馬

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しいことや新しいもの、新しい人との出会いが初等部で待っています。これから始まる6年間でいろいろなことに触れて、大きく成長して行ってほしいです。

初等部という新しい世界での友達や上級生、先生との関わりや学びの時に対して期待と、もしかしたら不安もあるかもしれません。でも大丈夫です。ゆっくりでいいから、一步一步前に進んで行けます。友達も上級生も先生も家族の方々もそして神様も、みなさんのことを見ていてくれます。

初等部ではお祈りの時をみんなで大切にしています。時にはみんなでお祈りをして気持ちを分かち合って、時には一人一人で行々の感謝を伝え、心の不安を神様に聞いてもらいます。みなさんも自分の気持ちをいつでも神様にお話ししてみてください。

わくわくとドキドキの初等部での生活、たくさんのチャレンジと遊びと学びを、元気とやさしさをもって笑顔で過ごしてください。みなさんの未来が希望に満ちたものになりますよう願っています。



初等部 2年 山田 雅

## たくさんおもいでを つくろう

1年生のみなさん、ごにゅう学おめでとうございます。青山学いんしょとうぶには、たくさんのおきょうじや、きゅうしょくがあります。わたしはまい日学校に行くのがたのしいです。そして、きゅうしょくのおかげでたべられるものがたくさんふえました。あなたも、きゅうしょくでにが手なものも一口たべてみてくださいね。きっとすきになれるとおもいます。

まい日のれいはいでは、さんびかとせいしょをよみます。わたしがーばんすきなさんびかは「クレド」です。なぜすきかというと、せかいのへいわをねがうきよくだからです。みなさんにもはやくおしえてあげたいです。

青山学いんしょとうぶには、パートナーというものがあるのをしていますか？パートナーさんは2ねん生と6ねん生で、いっしょにあそんでくれたり、いろいろなことおしえていただきます。わたしは6ねん生のパートナーさんと、しょくどうきゅうしょくのあと、もうーどいっしょにこうていであえるじかんが大好きです。4月に1ねん生のパートナーさんにあえるのが、いまからとてもたのしみです。学校のことをたくさんおしえてあげたいですし、はやくあいたいです。たくさんおもいでをつくってくださいね。



中等部教諭 姜 福順

## ようこそ、中等部へ！

80期のみなさん中等部ご入学おめでとうございます。真新しい制服に包まれている今の気持ちはいかがですか。この制服を着て今日から「中等部生」としての3年間が始まります。そのようなフレッシュな新入生の皆さんへ、私から学校生活を充実させるための小さなヒントをお教えします。それは、入学式を終えたばかりのみなさんにはまだイメージできないかも知れませんが、3年後の自分を思い描きながら毎日を過ごすということです。「3年後にはどうなっていたいか」を考えながら生活していると、普段見過ごしてしまいそうな小さな出来事や出会いがとても気になるようになるはずです。また、この答えは一人で出すことが難しいので、たくさんの方の話に耳を傾けようとするでしょうし、たくさんの方の行動を見て参考にしたいとも思うでしょう。

中等部にはみなさんを含め768名の生徒がいます。これまで出会ったことのないようなバックグラウンドを持つ生徒との出会いがたくさんあります。



また、日々の礼拝でも神様の御言葉に触れながら自らと向き合う時間もあります。そして、80期を担当させていただく私たちは、みなさんの自分探しをさらに楽しくする仕掛けをたくさん用意しています。このような環境で自分探しの旅を楽しんでください。応援しています。



中等部3年 小林 楽来

## 今、思うこと

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。2年前の春、僕も皆さんと同じように中等部生活のスタートラインに立ちました。新たな出会いへの期待、これから始まる新生活に、胸が高鳴ったことを今でも鮮明に覚えています。それと同時に、小学生から中学生へと大きく環境が変わることに、たくさんの緊張もありました。3年生になった今、僕から新入生の皆さんに伝えたいこと。中等部には、様々な挑戦に向けて助け合える仲間がいます。1人だけで乗り越えることが難しいことも、みんなで協力することで大きな力に変えられると、僕は自分自身の経験から学びました。そして、「踏み出す勇気を持つ大切さ」を、僕はこの中等部生活を通じて強く実感しています。大小様々な選択を前に、時に迷うこともあります。勇気を出して踏み出した一歩は、必ず充実した学校生活に繋がるはず。今日から共に青山学院中等部の仲間です。これから一緒に楽しく充実した学校生活を築いていきましょう。

高等部教諭 北川 理恵

## 他者との関わりで自分を見出す

新入生の皆さん、高等部へようこそ！これからの3年間、友達・先生・先輩・後輩など様々な人との出会いによって、自分自身を改めて知る経験をすることでしょう。さらに、聖書の言葉は、究極の他者である“神様”の視点によって、自分自身を新しく知る助けになることと思います。

なぜあの人ができることを私はできないのだろうと、周りと比べてばかりいた私は、ある聖句との出会いで物の見方が大きく変わりました。それは、「**あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です**」(1コリント 12:27 新共同訳)。目も耳も手も足も、それぞれに異なる特徴と役割があり、それらが一つの体を形成しているように、私たち一人一人にも違いがあり、役割があり、足りないところもある。だからこそ私たちは支え合いながら、共に生きる存在なのだ気づかされたのです。そして、神様が望んで今の私を存在させてくださったと知った時、喜びで満たされました。

皆さん一人一人に、新しい視点を与えてくれる聖書の言葉との出会いがあるように願っています。



高等部3年 横山 沙弥香

## かけがえのない日々

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！中等部から内部進学してきた人も、受験して入学してきた人も、それぞれ新しい環境に期待と不安を抱いているのではないのでしょうか。高等部は様々な行事や部活で充実しているので、素敵な毎日が待っています。

私の好きな聖書箇所「若者よ、あなたの若さを喜べ。若き日にあなたの心を楽しませよ。心に適う道をあなたの目に映るとおりに歩め。」(コヘレト 11:9)

というのがあります。高校3年間はあっという間に終わってしまいます。気が付けば私も高校最後の年になってしまいました。仲間たちと笑いあった楽しい日も、思うようにいかず頭を抱えた日も、何気ない日常も振り返ってみると大切な思い出です。後悔先に立たず！何か新しいことに挑戦してみたり、興味があることに素直に向きあったり、やりたいことは後回しにせず、思いっきり青春してください！皆さんのこれからの高等部生活が、実り多く、輝かしいものになりますよう願っています。



## 科学の世界の 公用語

総合文化政策学部教授 福岡 伸一

こんな思い出話があります。大きな規模の生物学の国際学会に参加しました。世界中からたくさんの研究者が集まります。私を含め、非英語圏からの参加

者も多数います。初日は皆が一堂に会し、学会の開催宣言が行われました。この分野の大御所学者が、基調講演を行います。今回、その役は、スイスの著名な先生によってなされました。彼は、威厳に満ちた重々しい足取りでゆっくりと壇上に上がり、演台の前に立ちました。そして開口一番、彼は英語でこう言いました。

「科学の世界の公用語は、皆さん、英語であると当然のようにお考えになっていると思いますが、実は違います」

一体、何を言い出すのでしょうか。会場に集まった人々は驚いて彼の顔を注視しました。彼自身は、ドイツ系スイス人。その英語はかなり強いドイツなまり、お世辞にも流暢な英語とは言えません。皆は、次に彼がなんと言うか息を吞んで待ちました。まさか、彼の母語であるドイツ語だ、などと言うのではないだろうな。かつてドイツはすべての科学分野で世界をリードしていた黄金の一時期があったことは確かだが、いまさらそれはない。

果たして、彼はこう言いました。

「科学の世界の公用語は、へたな英語(プア・イングリッシュ)です。どうかこの会期中、あらゆる人が進んで議論に参加されることを望みます」

会場からは大きな笑いとそして拍手が沸き起こった。この基調講演に勇気づけられたおかげだろう、この学会では、どのセッションでも非英語民の活発な発言が目立った。私もその一人だった。みなさま、入園・入学おめでとうございます。ぜひ勉強や友達作りに励んでください。



## やらぬ後悔より、まずはやってみよう

総合文化政策学部 4年 李 明恵

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる新生活にワクワクしている人もいれば、緊張している人もいるでしょう。私も3年前、憧れと不安を抱きながら入学しました。「やらぬ後悔よりやる後悔」という言葉を胸に、たくさんのことに挑戦してきました。多くの失敗も経験し、途中で諦めてしまったこともありましたが、この3年間で出会った仲間や経験は、今の私にとってかけがえのない財産です。

新入生の皆さんもぜひ、新しいことにどんどんチャレンジしてみてください。学生だからこその挑戦がたくさんあります。失敗してもいいんです。やってみて「違うな」「しんどいな」と思ったら、手放しても構いません。行動していく中で、自分に向いていることや本当に大切にしたいことがきっと見つかるはずです。チャレンジするか迷ったら、ぜひ一歩踏み出してみてください。

そして、その挑戦の一つとして、青山学院のキリスト教活動にもぜひ触れてみてください。皆さんの青山学院での生活と挑戦が、実り豊かなものとなるよう心からお祈りしています。



# 新入生に おすすめする1冊



今回は幼稚園から大学の方々に、おすすめの絵本・書籍を紹介していただきました。ぜひお手に取ってみてください。

## あそぼうよ

作：レオ＝レオニ、好学社出版、2010年発行

幼稚園教諭 赤坂 洋子



きょうはなにしようか？

2匹のネズミは「おはよう！」から「おやすみなさい！」まで色々なことをして遊びます。「ほんよんでもいいし／おはなつんでもいいし／およぎにいてもいい」と、とにかく遊ぶのです。

この絵本は『スイミー』『あおくときいろちゃん』などで知られている絵本作家レオ＝レオニが、より年少者向けに作った一冊です。好きなことを存分に楽しんでいる2匹の姿が、色鮮やかなコラージュで優しくも生き生きと描かれていて、まるで一緒に遊んでいるようなワクワク感を覚えます。

「〇〇してもいい」と言われたらきっと「あれもしたい、これもしたい！」と嬉しくなりますね。実は、青山学院幼稚園は「おはよう！」から「さようなら！」まで、そうやってたくさん遊ぶ場所です。新入園児の皆さん、保護者の皆さま、どうぞ「きょうはようちえんでなにしようか？」と楽しみにしていらしてください。そして「あれがしたい、これがしたい」と、先生たちに教えてくださいね。やりたいこと、好きなことを、いっぱい膨らませていきましょう！





## くすのきだんちへ おひっこし

作：武鹿 悦子、ひかりのくに出版、2008年発行

初等部 6年 大瀬 あさひ

このお話の主人公、かえるくんは、ある日「くすのきだんち」にやってきました。管理人のもぐらにすすめられ、部屋の中を見えます。そして、ここに引っ越そうか考えます。けれど、上の階と下の階にかえるくんの苦手な鳥がすんでいるから、「やっぱりだめだめ。」と言って帰ってしまいます。

かえるくんは階段を下りるのが面倒になり、手すりに飛び乗り滑っていきます。しかし勢いあまって、壁にぶつかってしまいました。そうして、そんなけがをしてしまったかえるくんを、くすのきだんちの住人ははげましてくれました。かえるくんが苦手な鳥のかけすはプリンを作ってくれました。くすのきだんちの住人のやさしさを知って、かえるくんはここに引っこすことを決めました。

かえるくんが鳥が苦手なように、みんなも苦手な人ができてしまうかもしれません。でもそれは自分が相手のことを知らないだけで、本当はとっても良い人かもしれません。勇気をだして、その人に歩みよってみてください。そうしたら、何か変わるかもしれません。新入生みなさん、この新しい生活で、すこし苦手な人ができた時、ぜひくすのきだんちのかえるくんを思い出してみてください。そして勇気をだしてみてはどうでしょうか。



# そして、 バトンは渡された

作：瀬尾 まいこ、文藝春秋出版、2018年発行

中等部教諭 栗原 拓也



「愛とは、相手のことを大切にしたいと思う気持ちのことだ」

中等部時代に、初めてキリスト教に触れた私に、聖書の先生が教えてくれた言葉です。聖書には「愛」という言葉がよく出てきます。しかし、まだ中学生になりたてだった私にとって、「愛」は漠然としたものでした。「好き」や「恋」となりが違うのか、隣人を愛するとはどうすることか。この言葉を聞いてからは、聖書の言葉が、「愛」が、ずっと胸に入ってくるようになりました。新入生のみなさんにおすすめするのは、そんな「愛」をテーマにした作品です。

本作の主人公、優子は、名字が4回変わり5人の親がいる高校3年生。一見すると”不幸”な家庭環境のように思えますが、優子には一切悲壮感はありません。なぜなら、優子の5人の親はみな、時には奔放に、また時にはさりげなく、いろいろな形の「愛」を懸命に注ぎ続けたからです。そして、大切に大切に繋がれていった「愛のバトン」は優子の手に渡り、どうなっていくのか。物語を読みながら、そして中等部での3年間を過ごしながら、保護者の方々や先生方、神様からのたくさんの「愛」に触れ、「愛」について考え続けてくれたらと願っています。





## いまを生きるあなたへ 神に招かれて

作：安藤 理恵子、いのちのことば社出版、2020年発行

高等部3年 本間 誉

ご入学おめでとうございます。私が紹介するのは「いまを生きるあなたへ 神に招かれて」です。この本は、今を生きる若者に向けて書かれており、キリスト教学校で学ぶ私たち高等部生にぴったりな一冊です。筆者の安藤さんご自身が学生の時に感じたキリスト教や聖書に関する思いがありありと表現されており、聖書のことばをわかりやすく解説してくださっています。みなさんは今どんな心境で青山学院の門をくぐるでしょうか。先行きの見えないこの時代の中で誰にも言えない思いや悩みを抱えたり、これからの人生について思考をめぐらしたりすることもあるかもしれません。安藤さんはこう語ります。「これからの人生は、神が造られた本来の自分を発見していく旅です。『私は、この私でよかった。』と思えるような深い満足と感謝に至る人生に導こうとしておられる神がいます。そう考えると、世界が違って見えてきませんか。」

青山学院高等部ならではの学びがこれからたくさんあると思います。聖書のことばを聞いて、ぜひこの3年間を実りのあるものにしてくださいね。



# はじめての ボンヘッファー

作：S.R. ヘインズ/L.B.ヘイル、教文館出版、2015年発行

大学宗教主任・文学部教授

シュー土戸 ポール

大学宗教主任・国際マネジメント研究科教授

島田 由紀



世界が深く分断され互いの「正しさ」が衝突し、絶え間ない紛争の報せに心が疲弊するこの時代に、私たちはどう生きるのかが問われています。ナチス独裁に抗い、命を落としたドイツ人神学者ディートリッヒ・ボンヘッファーの「抵抗」は、単なる政治的運動ではなく、深い信仰に根ざした「責任ある行動」の結実でした。

『はじめてのボンヘッファー』は、その複雑な思想と激動の生涯をイラストとともに平易に紹介し、若い読者にも本質的な問いを投げかけます。彼が語った「愚かさ(Dummheit)」は、知識の欠如ではなく、権力や周囲の「空気」に同調し自ら考えることを放棄する心の状態を指し、SNSのアルゴリズムやAIの情報に主体性を奪われがちな現代の私たちへの切実な警告となります。

それでも彼の遺した言葉は絶望には終わらず、他者の苦しみに寄り添い「他者のために生きる」中に真の希望があると示しました。「地の塩、世の光」として歩むことを目指す本学での学びの中で、本質を見極め、勇気を持って一步を踏み出すための確かな道標として、この一冊を推薦します。

## 編集後記

私は小さい頃から「先生になりたい」と思っていました。キリスト教主義の中学・高校で、聖書に描かれる羊飼いのたとえ話に出会い、百匹のうち一匹が迷い出たとき、九十九匹を残してでもその一匹を探しに行く姿に、「一人ひとりを大切にする」教員になりたいという思いの原点を見たように思います。

青山学院大学に入学してからは、ゼミの先生が「努力を続けていれば、夢は必ず叶う」と教えてくださいました。その言葉に背中を押され、米国の大学院で言語教育を学び、学生一人ひとりが自分に合った方法で学べるよう、言語学習ストラテジーをテーマに博士論文を書きました。

今、教員として再び青山学院大学に立ちながら、迷いや不安を抱える学生一人ひとりに寄り添える存在でありたいと願っています。本号『Wesley Hall News 入学号』が、青山学院大学のキリスト教の精神とともに、新しい一歩を踏み出す皆さんの歩みに、温かな希望の光を添えるものとなれば幸いです。

理工学部准教授 森 幸穂

### 【お詫びと訂正】

Wesley Hall News150号におきまして、お名前の漢字表記に誤りがございました。ご本人様ならびに関係の皆様にご迷惑をおかけいたしましたことを、心よりお詫び申し上げます。下記のとおり訂正させていただきます。

◆ 8ページ (誤)小島 和香 (正)小島 和夏

## Wesley Hall News 第151号

2026年4月10日発行

発行 青山学院宗教センター  
学院宗教部長 伊藤 悟

編集 青山学院 Wesley Hall News 編集委員会  
〒150-8366  
東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL 03-3409-6537 FAX 03-3409-8865

デザイン 株式会社パットンファイヴ  
印刷 株式会社スバルグラフィック

URL <https://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>  
MAIL [agcac@aoyamagakuin.jp](mailto:agcac@aoyamagakuin.jp) みなさんの感想をお聞かせください

青山学院スクール・モットー

## 地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

(マタイによる福音書 第5章 13-16 節より)